



# 東俣野 2月号

東俣野小学校 学校だより

令和2年1月31日

## 太陽からの贈り物

副校長 宮崎 恵子

1月18日(土)の「凧づくり・凧あげ大会」には、ご多用の中たくさんの保護者の皆様にご参加くださり、どうもありがとうございました。午前中は、地域の名人の皆様に丁寧にご指導いただきながら、保護者の皆様のご協力のもと、子ども達は熱心に凧づくりに取り組みました。午後の凧あげ大会は、天候不良のため、残念ながら体育館での「作品発表会」に変更になりましたが、力作を互いに見合ったり、他学年の凧を知ったりする機会にもなり、良い経験になりました。また、今年は初めての試みとして、低学年のみでしたが、名人さんに持ってきていただいた様々な凧を見学する時間を作りました。私達大人も感動するような様々な凧と出会うことができ、子ども達も大喜びでした。地域の凧名人の皆様には、今年も凧づくり以外にもいろいろとご協力いただき、本当にありがとうございました。



この日子ども達が完成させた凧は、2月3日(月)に田んぼであげる予定です。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。(なお、2月3日が中止になった場合、今後は日程調整が難しいため、今年度の「凧あげ大会」は中止とさせていただきます。)

さて、今年は4年に1度のオリンピックイヤーであり、そして「うるう年」でもあります。2月が29日であるため、今年は、昨年よりも来年よりも1日多い366日です。

地球は、太陽の周りを約365日かけてまわっていますが、正確には365日と約6時間かかるため、4年間で約24時間 = 1日分のズレが起きてしまいます。このため、4年に一度、1年の日数を1日増やして調整している・・・というのが、この「うるう年」です。

しかし、この調整は完璧なものではないそうです。正確にはズレは6時間より少ないため、うるう年を設定したことで実は少しずつではありますが、増やしすぎになっています。そのため、さらなる微調整が必要になり、「西暦の年号が100でわりきれぬ&400ではわりきれぬ年は、うるう年にはならない」というルールができたそうです。例えば、2096年はうるう年ですが、その次は4年後の2100年ではなく、2104年なのだそうです。2100年は100でわりきれぬ、400ではわりきれぬ年なので、うるう年にはならないというわけです。なかなか奥が深いです。

ということで、今年は1年366日のうるう年ですが、1日多いというこの事実をどのようにとらえますか? 「えー、いつもより多いの?」と不満を訴えるマイナス思考ではなく、まさに「太陽からの贈り物」の1日として、「1日増えて、今年はラッキー!」「どうやって過ごそうかな」とプラスに考えられるといいですね。今年の2月29日は土曜日です。さて、どのように過ごされますか?うるう年の意味を考えながら、どうぞ、お子さんと素敵な1日をお過ごしください。